

第4回 石岡市小中学校統合計画審議会

日時 平成30年5月31日（木）

午後3時00分

場所 八郷総合支所 101・102会議室

次 第

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 教育長あいさつ

4. 協議事項

(1) 適正規模から見た統合再編案について

(2) 適正配置（学校配置）案について

(3) その他

5. 閉 会

※資料

資料 1 平成30年度 市内小中学校児童生徒数

資料 2 市内小中学校 児童生徒数の今後の推移

資料 3 学区別統合再編案

資料 4 市内小中学校位置図及び児童生徒数

資料 5 学校別統合再編案

参考資料 石岡市小中学校統合計画審議会について

平成30年度 市内小中学校児童生徒数

学年 学校名	学年						計	学級数
	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
石岡小	49	46	43	62	46	52	298	12 (14)
府中小	79	74	72	69	69	80	443	14 (17)
高浜小	5	9	8	10	15	12	59	5 (6)
東小	87	82	96	99	77	96	537	17 (22)
三村小	10	14	16	8	8	16	72	5 (6)
関川小	5	7	3	6	7	7	35	4 (4)
北小	6	4	5	10	4	6	35	4 (5)
南小	83	64	68	72	77	60	424	13 (15)
杉並小	57	56	62	57	69	53	354	12 (15)
園部小	26	30	32	38	39	36	201	6 (8)
東成井小	18	33	15	22	20	19	127	6 (6)
瓦会小	13	7	6	12	14	8	60	5 (6)
林小	23	20	18	27	27	22	137	6 (8)
恋瀬小	18	9	10	13	11	18	79	6 (8)
葦穂小	5	12	11	15	10	13	66	6 (7)
吉生小	7	3	7	4	9	7	37	4 (4)
柿岡小	20	32	33	22	31	32	170	6 (8)
小幡小	15	21	18	19	14	18	105	6 (7)
小桜小	18	15	12	20	16	13	94	6 (8)
計	544	538	535	585	563	568	3,333	143 (174)

学年 学校名	学年			計	学級数
	1年	2年	3年		
石岡中	194	252	212	658	19 (21)
府中中	144	138	155	437	13 (16)
国府中	45	72	54	171	6 (8)
園部中	62	42	48	152	6 (8)
八郷中	158	139	178	475	14 (16)
計	603	643	647	1,893	58 (69)

※児童生徒数，学級数は平成30年5月1日現在

※児童生徒数は特別支援学級の人数を含み，学級数の（ ）は特別支援学級を含む

※ の学年は複式学級

資料2

今後の推移(小学校)

学校名	平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度		平成36年度	
	児童数	学級数										
石岡小	280	11	272	11	244	10	237	10	234	10	222	10
府中小	429	15	430	15	431	15	432	15	408	14	407	14
高浜小	64	5	65	5	67	5	74	5	84	6	95	6
東小	510	17	527	17	506	17	514	17	520	17	520	17
三村小	65	5	64	6	64	5	55	5	49	4	51	4
関川小	34	4	34	4	34	4	43	4	41	4	45	5
北小	37	4	42	4	41	4	46	5	48	5	48	5
南小	428	15	408	14	396	13	397	13	380	13	354	12
杉並小	355	12	332	12	322	12	319	12	310	12	312	12
園部小	199	8	188	7	171	6	169	6	156	6	148	6
東成井小	132	6	131	6	133	6	136	6	125	6	130	6
瓦会小	65	5	63	5	66	5	72	6	76	6	69	6
林小	133	6	132	6	125	6	133	6	134	6	128	6
恋瀬小	72	6	81	6	77	6	83	6	84	6	71	6
葦穂小	65	6	64	6	58	6	59	6	57	6	64	6
吉生小	37	4	40	4	44	4	46	5	51	5	56	6
柿岡小	162	6	160	6	161	6	150	6	135	6	133	6
小幡小	102	6	99	6	100	6	100	6	93	6	88	6
小桜小	96	6	95	6	88	6	93	6	94	6	88	6
計	3,265	147	3,227	146	3,128	142	3,158	145	3,079	144	3,029	145

- ・児童数は特別支援学級の人数を含み、学級数は特別支援学級数を含まない
- ・平成31年度から平成36年度の児童数及び学級数は、平成30年5月1日現在の住民記録登録者数から推計
- ・学級数は、1学級35人で試算
- ・ は複式学級が発生する可能性のある年度

今後の推移(中学校)

	平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度		平成36年度		平成37年度		平成38年度		平成39年度		平成40年度		平成41年度		平成42年度	
	生徒数	学級数																						
石岡中	637	20	569	18	570	18	570	18	562	18	557	18	531	17	536	17	510	16	552	17	538	16	555	17
府中中	421	13	425	14	417	13	417	13	409	12	415	13	404	13	395	13	379	12	393	13	371	12	388	13
国府中	169	7	143	6	160	6	151	6	151	6	138	6	129	5	121	5	106	4	108	5	113	5	116	6
園部中	159	6	176	6	174	6	166	6	170	6	154	6	165	6	149	6	150	6	140	6	132	6	128	6
八郷中	428	13	421	13	395	12	379	12	366	12	353	12	353	12	368	12	366	12	383	12	356	12	331	11
中学校計	1,814	59	1,734	57	1,716	55	1,683	55	1,658	54	1,617	55	1,582	53	1,569	53	1,511	50	1,576	53	1,510	51	1,518	53

- ・生徒数は特別支援学級の人数を含み、学級数は特別支援学級数を含まない
- ・平成31年度から平成42年度の生徒数及び学級数は、平成30年5月1日現在の住民記録登録者数から推計
- ・学級数は、1学級35人で試算
- ・ は単学級となる可能性のある年度

学区別統合再編案
(数値は平成36年度推計)

凡例	分類	学級数
	過小規模校	1~5
	小規模校	6~11
適正規模校	12~18	

石岡中学区

(適正規模ベース)

(適正規模+小中一貫校)

(旧中学校区+小中一貫校)

対象校	児童生徒	学級数
石岡中学校	557	18
東小学校	520	17
高浜小学校	95	6
三村小学校	51	4
関川小学校	45	5
南小学校	354	12

A案	児童生徒	学級数
石岡中学校	557	18
東小学校	520	17
南小学校	545	18

B案	児童生徒	学級数
石岡中学校	557	18
東小学校	520	17
南小学校	545	18

C案	児童生徒	学級数
石岡中学校	557	18
東小学校	520	17
高浜 三村 小学校 関川	191	7
南小学校	354	12

府中中学区

対象校	児童生徒	学級数
府中中学校	415	13
府中小学校	407	14
北小学校	48	5
杉並小学校	312	12

A案	児童生徒	学級数
府中・国府中	553	18
府中小学校	455	17
杉並小学校	312	12

B案	児童生徒	学級数
府中中学校	415	13
府中小学校	455	17
杉並小学校	312	12

C案	児童生徒	学級数
府中中学校	415	13
府中小学校	455	17
杉並小学校	312	12

国府中学区

対象校	児童生徒	学級数
国府中学校	138	6
石岡小学校	222	10

A案	児童生徒	学級数
府中中へ	↑	↑
石岡小学校	222	10

B案	児童生徒	学級数
国府地区 小中一貫校	138	6
	222	10

C案	児童生徒	学級数
国府地区	138	6
小中一貫校	222	10

八郷中学区

対象校	児童生徒	学級数
八郷中学校	353	12
瓦会小学校	69	6
恋瀬小学校	71	6
林小学校	128	6
柿岡小学校	133	6
葦穂小学校	64	6
吉生小学校	56	6
小幡小学校	88	6
小桜小学校	88	6

A案	児童生徒	学級数
八郷・園部中	507	16
柿岡小学校	401	14
小幡小学校	296	12

B案	児童生徒	学級数
八郷中学校	353	12
柿岡小学校	401	14
小幡小学校	296	12

C案	児童生徒	学級数
八郷中学校	353	12
恋瀬 瓦会 小学校	140	6
柿岡小学校	381	13
小幡 小桜 小学校	176	6

園部中学区

対象校	児童生徒	学級数
園部中学校	154	6
園部小学校	148	6
東成井小学校	130	6

A案	児童生徒	学級数
八郷中へ	↑	↑
園部小学校	278	12

B案	児童生徒	学級数
園部地区 小中一貫校	154	6
	278	12

C案	児童生徒	学級数
園部地区	154	6
小中一貫校	278	12

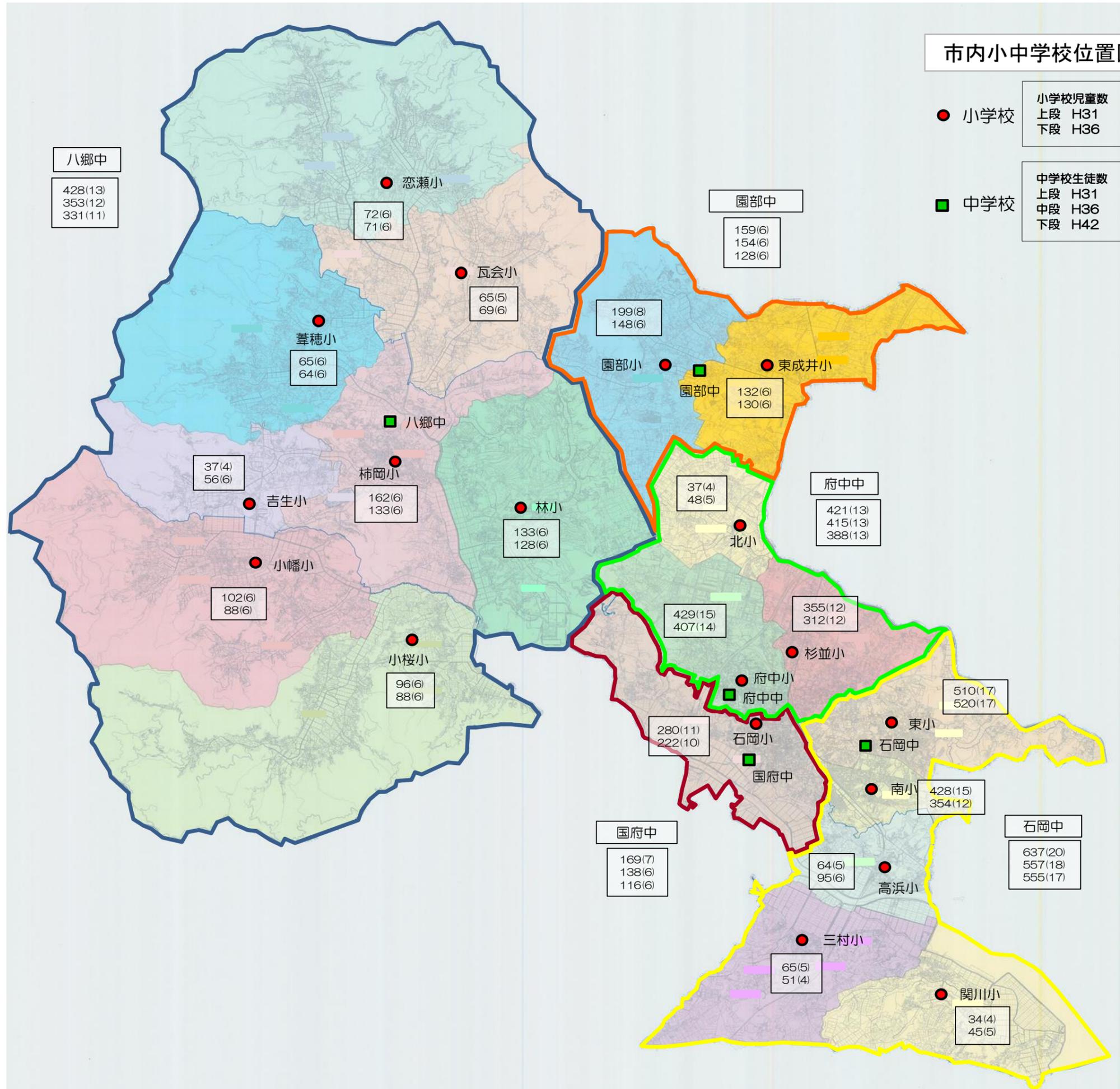
学校規模	小	中
過小規模校	3	
小規模校	12	2
適正規模校	4	3
計	19	5

学校規模	小	中
過小規模校		
小規模校	1	
適正規模校	7	3
計	8	3

学校規模	小	中
過小規模校		
小規模校	1	2
適正規模校	7	3
計	8	5

学校規模	小	中
過小規模校		
小規模校	4	2
適正規模校	6	3
計	10	5

市内小中学校位置図及び児童生徒数



統合パターン（A案）適正規模ベース1

- ・小学校：1学年2学級から3学級
- ・中学校：1学年3学級以上

資料5-1

統合によるメリット・デメリット

メリット

- ・全中学校で教科担任の配置が可能となる。

デメリット

- ・指定学校の通学区域が広い。
- ・地域コミュニティ等が希薄となる可能性がある。

統合再編校

対象校	平成31年度		平成36年度		学年	平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数		児童数	学級数
高浜小学校	64	5	95	6	1年	94	3
三村小学校	65	5	51	4	2年	79	3
関川小学校	34	4	45	5	3年	103	3
南小学校	428	15	354	12	4年	86	3
					5年	87	3
					6年	96	3
					合計	545	18

- 学校の場所
 - ・南小学校
- 場所選定の理由
 - ・4校が石岡中学校区であること
 - ・南小学校は適正規模校であり、高浜小、三村小、関川小は小規模校であること
 - ・南小学校は4校が統合しても全児童が入れる施設規模であること
- メリット
 - ・同一中学校区であること
 - ・複式学級が解消されること
- デメリット
 - ・南小学校の校舎は建設から42年経過していること
 - ・通学距離が10km程度になる地域があること

対象校	平成31年度		平成36年度		学年	平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数		児童数	学級数
府中小学校	429	15	407	14	1年	84	3
北小学校	37	4	48	5	2年	56	2
					3年	83	3
					4年	79	3
					5年	79	3
					6年	74	3
					合計	455	17

- 学校の場所
 - ・府中小学校
- 場所選定の理由
 - ・2校が府中中学校区であること
 - ・府中小学校は適正規模であり、北小学校は小規模校であること
 - ・府中小学校は2校が統合しても全児童が入れる施設規模であること
- メリット
 - ・小小連携の取り組みがされているため、子ども達のスムーズな統合、再編が期待できること
 - ・同一中学校区であること
 - ・複式学級が解消されること
- デメリット
 - ・府中小学校の校舎は建設から50年経過していること
 - ・北小学校は建設から5年経過していること
 - ・通学距離が6km程度になる地域があること

対象校	平成31年度		平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
園部小学校	199	8	148	6
東成井小学校	132	6	130	6

学年	平成36年度	
	児童数	学級数
1年	41	2
2年	39	2
3年	48	2
4年	45	2
5年	47	2
6年	58	2
合計	278	12

- 学校の場所 ・ 園部小学校
- 場所選定の理由 ・ 2校が園部中学校区であること
・ 園部小学校は2校が統合しても全児童が入れる施設規模であること
- メリット ・ 小小連携の取り組みがされているため、子ども達のスムーズな統合、再編が期待できること
・ 同一中学校区であること
・ 単学級が解消されること
- デメリット ・ 園部小学校の校舎は建設から38年経過していること
・ 通学距離が6km程度になる地域があること

対象校	平成31年度		平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
瓦会小学校	65	5	69	6
恋瀬小学校	72	6	71	6
林小学校	133	6	128	6
柿岡小学校	162	6	133	6

学年	平成36年度	
	児童数	学級数
1年	46	2
2年	59	2
3年	76	3
4年	67	2
5年	87	3
6年	66	2
合計	401	14

- 学校の場所 ・ 柿岡小学校
- 場所選定の理由 ・ 4校が八郷中学校区であること
・ 柿岡小学校は4校が統合しても全児童が入れる施設規模であること
・ 地域性から見て柿岡小学校が望ましいと考えられること
- メリット ・ 同一中学校区であること
・ 単学級が解消されること
- デメリット ・ 柿岡小学校の校舎は建設から45年経過していること
・ 城跡に柿岡小学校が建築されているため敷地が狭隘であること
・ 通学距離が9km程度になる地域があること

対象校	平成31年度		平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
葦穂小学校	65	6	64	6
吉生小学校	37	4	56	6
小幡小学校	102	6	88	6
小桜小学校	96	6	88	6

学年	平成36年度	
	児童数	学級数
1年	46	2
2年	48	2
3年	56	2
4年	50	2
5年	47	2
6年	49	2
合計	296	12

- 学校の場所 ・ 小幡小学校
- 場所選定の理由 ・ 4校が八郷中学校区であること
・ 小幡小学校は地理的に見て中間的な位置となっていること
- メリット ・ 同一中学校区であること
・ 複式，単学級が解消されること
- デメリット ・ 小幡小学校の校舎は建設から34年経過していること
・ 既存の学校施設では全児童が入れないこと
・ 通学距離が9km程度になる地域があること

対象校	平成31年度		平成36年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数
府中中学校	421	13	415	13
国府中学校	169	7	138	6

学年	平成36年度	
	生徒数	学級数
1年	191	6
2年	180	6
3年	182	6
合計	553	18

学年	平成42年度	
	生徒数	学級数
1年	180	6
2年	146	5
3年	178	6
合計	504	17

- 学校の場所 ・ 府中中学校
- 場所選定の理由 ・ 府中中学校は適正規模校であり国府中学校は小規模校であること
・ 府中中学校はH14年に校舎の改修をしていること
・ 府中中学校は2校が統合しても全生徒が入れる施設規模であること
- メリット ・ 教科担任の配置ができること
- デメリット ・ 通学距離が5km程度になる地域があること

対象校	平成31年度		平成36年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数
園部中学校	159	6	154	6
八郷中学校	428	13	353	12

学年	平成36年度	
	生徒数	学級数
1年	163	5
2年	182	6
3年	162	5
合計	507	16

学年	平成42年度	
	生徒数	学級数
1年	133	4
2年	146	5
3年	180	6
合計	459	15

- 学校の場所 ・ 八郷中学校
- 場所選定の理由 ・ 八郷中学校はH25年に開校した新設校であること
・ 八郷中学校は2校が統合しても全生徒が入れる施設規模であること
- メリット ・ 教科担任の配置ができること
- デメリット ・ 通学距離が15km程度になる地域があること

単独校

小学校	平成31年度		平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
石岡小学校	280	11	222	10

学年	平成36年度	
	児童数	学級数
1年	37	2
2年	43	2
3年	36	2
4年	34	1
5年	38	2
6年	34	1
合計	222	10

小学校	平成31年度		平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
東小学校	510	17	520	17

学年	平成36年度	
	児童数	学級数
1年	87	3
2年	88	3
3年	104	3
4年	78	3
5年	94	3
6年	69	2
合計	520	17

小学校	平成31年度		平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
杉並小学校	355	12	312	12

学年	平成36年度	
	児童数	学級数
1年	59	2
2年	47	2
3年	59	2
4年	47	2
5年	46	2
6年	54	2
合計	312	12

中学校	平成31年度		平成36年度		学年	平成36年度		学年	平成42年度		
	生徒数	学級数	生徒数	学級数		生徒数	学級数		生徒数	学級数	
石岡中学校	637	20	557	18	→	1年	190	6	1年	181	6
					2年	176	6	2年	167	5	
					3年	191	6	3年	207	6	
					合計	557	18	合計	555	17	

- ・ 児童生徒数は特別支援学級の人数を含み、学級数は特別支援学級数を含まない
- ・ 平成31年度から平成36年度の児童生徒数及び学級数は、平成30年5月1日現在の住民記録登録者数から推計
- ・ 平成31年度以降の学級数は、1学級35人、複式学級は2学年で16人以下で試算

統合によるメリット・デメリット

メリット

- ・ 全中学校で教科担任に配置が可能となる。

デメリット

- ・ 指定学校の通学区域が広い。
- ・ 地域コミュニティ等が希薄となる可能性がある。

統合再編校

対象校	平成31年度		平成36年度		学年	平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数		児童数	学級数
高浜小学校	64	5	95	6	1年	94	3
三村小学校	65	5	51	4	2年	79	3
関川小学校	34	4	45	5	3年	103	3
南小学校	428	15	354	12	4年	86	3
					5年	87	3
					6年	96	3
					合計	545	18

- 学校の場所
 - ・ 南小学校
- 場所選定の理由
 - ・ 4校が石岡中学校区であること
 - ・ 南小学校は適正規模校であり、高浜小、三村小、関川小は小規模校であること
 - ・ 南小学校は4校が統合しても全児童が入れる施設規模であること
- メリット
 - ・ 同一中学校区であること
 - ・ 複式学級が解消されること
- デメリット
 - ・ 南小学校の校舎は建設から42年経過していること
 - ・ 通学距離が10km程度になる地域があること

対象校	平成31年度		平成36年度		学年	平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数		児童数	学級数
府中小学校	429	15	407	14	1年	84	3
北小学校	37	4	48	5	2年	56	2
					3年	83	3
					4年	79	3
					5年	79	3
					6年	74	3
					合計	455	17

- 学校の場所
 - ・ 府中小学校
- 場所選定の理由
 - ・ 2校が府中中学校区であること
 - ・ 府中小学校は適正規模であり、北小学校は小規模校であること
 - ・ 府中小学校は2校が統合しても全児童が入れる施設規模であること
- メリット
 - ・ 小小連携の取り組みがされているため、子ども達のスムーズな統合、再編が期待できること
 - ・ 同一中学校区であること
 - ・ 複式学級が解消されること
- デメリット
 - ・ 府中小学校の校舎は建設から50年経過していること
 - ・ 北小学校は建設から5年経過していること
 - ・ 通学距離が6km程度になる地域があること

対象校	平成31年度		平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
瓦会小学校	65	5	69	6
恋瀬小学校	72	6	71	6
林小学校	133	6	128	6
柿岡小学校	162	6	133	6

学年	平成36年度	
	児童数	学級数
1年	46	2
2年	59	2
3年	76	3
4年	67	2
5年	87	3
6年	66	2
合計	401	14

- 学校の場所
 - ・ 柿岡小学校
- 場所選定の理由
 - ・ 4校が八郷中学校区であること
 - ・ 柿岡小学校は4校が統合しても全児童が入れる施設規模であること
 - ・ 地域性から見て柿岡小学校が望ましいと考えられること
- メリット
 - ・ 同一中学校区であること
 - ・ 単学級が解消されること
- デメリット
 - ・ 柿岡小学校の校舎は建設から45年経過していること
 - ・ 城跡に柿岡小学校が建築されているため敷地が狭隘であること
 - ・ 通学距離が9km程度になる地域があること

対象校	平成31年度		平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
葦穂小学校	65	6	64	6
吉生小学校	37	4	56	6
小幡小学校	102	6	88	6
小桜小学校	96	6	88	6

学年	平成36年度	
	児童数	学級数
1年	46	2
2年	48	2
3年	56	2
4年	50	2
5年	47	2
6年	49	2
合計	296	12

- 学校の場所
 - ・ 小幡小学校
- 場所選定の理由
 - ・ 4校が八郷中学校区であること
 - ・ 小幡小学校は地理的に見て中間的な位置となっていること
- メリット
 - ・ 同一中学校区であること
 - ・ 複式、単学級が解消されること
- デメリット
 - ・ 小幡小学校の校舎は建設から34年経過していること
 - ・ 既存の学校施設では全児童が入れないこと
 - ・ 通学距離が9km程度になる地域があること

小中一貫校

対象校	平成31年度		平成36年度	
	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数
石岡小学校	280	11	222	10
国府中学校	169	7	138	6

学年	平成36年度	
	児童生徒数	学級数
1年	37	2
2年	43	2
3年	36	2
4年	34	1
5年	38	2
6年	34	1
7年	49	2
8年	46	2
9年	43	2
合計	360	16

- 学校の場所 未定
- 場所選定の理由 _____
- メリット
 - ・ 1小1中であり、小中連携の取り組みがされているため、子ども達のスムーズな統合、再編が期待できること
 - ・ 教科担任の配置をすることができること
 - ・ 9年間を見据えた教育カリキュラムを組むことができること
- デメリット
 - ・ 既存の学校施設では小中一貫教育のメリットをいかすことができないこと

対象校	平成31年度		平成36年度	
	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数
園部小学校	199	8	148	6
東成井小学校	132	6	130	6
園部中学校	159	6	154	6

学年	平成36年度	
	児童生徒数	学級数
1年	41	2
2年	39	2
3年	48	2
4年	45	2
5年	47	2
6年	58	2
7年	44	2
8年	63	2
9年	47	2
合計	432	18

- 学校の場所 未定
- 場所選定の理由 _____
- メリット
 - ・ 2小1中であり、小中連携の取り組みがされているため、子ども達のスムーズな統合、再編が期待できること
 - ・ 教科担任の配置をすることができること
 - ・ 9年間を見据えた教育カリキュラムを組むことができること
- デメリット
 - ・ 既存の学校施設では小中一貫教育のメリットをいかすことができないこと

単独校

小学校	平成31年度		平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
東小学校	510	17	520	17

学年	平成36年度	
	児童数	学級数
1年	87	3
2年	88	3
3年	104	3
4年	78	3
5年	94	3
6年	69	2
合計	520	17

小学校	平成31年度		平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
杉並小学校	355	12	312	12

学年	平成36年度	
	児童数	学級数
1年	59	2
2年	47	2
3年	59	2
4年	47	2
5年	46	2
6年	54	2
合計	312	12

中学校	平成31年度		平成36年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数
石岡中学校	637	20	557	18

学年	平成36年度	
	生徒数	学級数
1年	190	6
2年	176	6
3年	191	6
合計	557	18

学年	平成42年度	
	生徒数	学級数
1年	181	6
2年	167	5
3年	207	6
合計	555	17

中学校	平成31年度		平成36年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数
府中中学校	421	13	415	13

学年	平成36年度	
	生徒数	学級数
1年	142	5
2年	134	4
3年	139	4
合計	415	13

学年	平成42年度	
	生徒数	学級数
1年	143	5
2年	103	3
3年	142	5
合計	388	13

中学校	平成31年度		平成36年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数
八郷中学校	428	13	353	12

学年	平成36年度	
	生徒数	学級数
1年	119	4
2年	119	4
3年	115	4
合計	353	12

学年	平成42年度	
	生徒数	学級数
1年	92	3
2年	107	4
3年	132	4
合計	331	11

- ・児童生徒数は特別支援学級の人数を含み、学級数は特別支援学級数を含まない
- ・平成31年度から平成36年度の児童生徒数及び学級数は、平成30年5月1日現在の住民記録登録者数から推計
- ・平成31年度以降の学級数は、1学級35人、複式学級は2学年で16人以下で試算

(B案)

統合によるメリット・デメリット

メリット

- ・旧中学校区を単位とする地域コミュニティ，地理的，歴史的な成り立ちに配慮した学校配置ができる。
- ・小中一貫教育の実施
- ・小中一貫を含め，中学校において教科担任の配置ができる。
- ・当面複式学級となる小学校はない。

デメリット

- ・クラス替えができない小学校がある。

統合再編校

対象校	平成31年度		平成36年度		学年	平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数		児童数	学級数
高浜小学校	64	5	95	6	1年	37	2
三村小学校	65	5	51	4	2年	32	1
関川小学校	34	4	45	5	3年	34	1
					4年	26	1
					5年	30	1
					6年	32	1
					合計	191	7

- 学校の場所
 - ・高浜，三村，関川小学校または旧城南中学校
- 場所選定の理由
 - ・3校が旧城南中学校区であること
- メリット
 - ・3小連携の取り組みがされているため，子ども達のスムーズな統合，再編が期待できること
 - ・旧城南中学校の施設，跡地の活用が考えられること
 - ・複式学級が解消されること
- デメリット
 - ・統合しても単学級が継続されること
 - ・通学距離が7km程度になる地域があること

対象校	平成31年度		平成36年度		学年	平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数		児童数	学級数
府中小学校	429	15	407	14	1年	84	3
北小学校	37	4	48	5	2年	56	2
					3年	83	3
					4年	79	3
					5年	79	3
					6年	74	3
					合計	455	17

- 学校の場所
 - ・府中小学校
- 場所選定の理由
 - ・2校が府中中学校区であること
 - ・府中小学校は適正規模であり，北小学校は小規模校であること
 - ・府中小学校は2校が統合しても全児童が入れる施設規模であること
- メリット
 - ・小小連携の取り組みがされているため，子ども達のスムーズな統合，再編が期待できること
 - ・同一中学校区であること
 - ・複式学級が解消されること
- デメリット
 - ・府中小学校の校舎は建設から50年経過していること
 - ・北小学校は建設から5年経過していること
 - ・通学距離が6km程度になる地域があること

対象校	平成31年度		平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
瓦会小学校	65	5	69	6
恋瀬小学校	72	6	71	6

学年	平成36年度	
	児童数	学級数
1年	11	1
2年	21	1
3年	28	1
4年	24	1
5年	32	1
6年	24	1
合計	140	6

- 学校の場所 ・ 恋瀬小学校または瓦会小学校
- 場所選定の理由 ・ 2校は旧有明中学校区であること
- メリット ・ 小小連携の取り組みがされているため、子ども達のスムーズな統合、再編が期待できること
- デメリット ・ 統合しても単学級が継続されること
・ 通学距離が7km程度になる地域があること

対象校	平成31年度		平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
林小学校	133	6	128	6
葦穂小学校	65	6	64	6
吉生小学校	37	4	56	6
柿岡小学校	162	6	133	6

学年	平成36年度	
	児童数	学級数
1年	59	2
2年	56	2
3年	69	2
4年	60	2
5年	76	3
6年	61	2
合計	381	13

- 学校の場所 ・ 柿岡小学校
- 場所選定の理由 ・ 4校が旧柿岡中学校区であること
・ 柿岡小学校は4校が統合しても全児童が入れる施設規模であること
・ 柿岡小学校が地域的に見て中間的な地点にあること
- メリット ・ 同一中学校区であること
・ 単学級が解消されること
- デメリット ・ 柿岡小学校の校舎は建設から45年経過していること
・ 城跡に柿岡小学校が建築されているため敷地が狭隘であること
・ 通学距離が7km程度になる地域があること

対象校	平成31年度		平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
小幡小学校	102	6	88	6
小桜小学校	96	6	88	6

学年	平成36年度	
	児童数	学級数
1年	22	1
2年	30	1
3年	35	1
4年	33	1
5年	26	1
6年	30	1
合計	176	6

- 学校の場所 ・ 小幡小学校または小桜小学校
- 場所選定の理由 ・ 2校が旧八郷南中学校区であること
- メリット ・ 同一中学校区であること
・ 小小連携の取り組みがされているため、子ども達のスムーズな統合、再編が期待できること
- デメリット ・ 統合しても単学級が継続されること
・ 通学距離が7km程度になる集落があること

小中一貫校

対象校	平成31年度		平成36年度		学年	平成36年度	
	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数		児童生徒数	学級数
石岡小学校	280	11	222	10	1年	37	2
国府中学校	169	7	138	6	2年	43	2
					3年	36	2
					4年	34	1
					5年	38	2
					6年	34	1
					7年	49	2
					8年	46	2
					9年	43	2
					合計	360	16

- 学校の場所 未定
- 場所選定の理由 _____
- メリット
 - ・ 1小1中であり、小中連携の取り組みがされているため、子ども達のスムーズな統合、再編が期待できること
 - ・ 教科担任の配置をすることができること
 - ・ 9年間を見据えた教育カリキュラムを組むことができること
- デメリット
 - ・ 既存の学校施設では小中一貫のメリットをいかすことができないこと

対象校	平成31年度		平成36年度		学年	平成36年度	
	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数		児童生徒数	学級数
園部小学校	199	8	148	6	1年	41	2
東成井小学校	132	6	130	6	2年	39	2
					3年	48	2
園部中学校	159	6	154	6	4年	45	2
					5年	47	2
					6年	58	2
					7年	44	2
					8年	63	2
					9年	47	2
合計	432	18					

- 学校の場所 未定
- 場所選定の理由 _____
- メリット
 - ・ 2小1中であり、小中連携の取り組みがされているため、子ども達のスムーズな統合、再編が期待できること
 - ・ 教科担任の配置をすることができること
 - ・ 9年間を見据えた教育カリキュラムを組むことができること
- デメリット
 - ・ 既存の学校施設では小中一貫のメリットをいかすことができないこと

単独校

小学校	平成31年度		平成36年度		学年	平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数		児童数	学級数
東小学校	510	17	520	17	1年	87	3
					2年	88	3
					3年	104	3
					4年	78	3
					5年	94	3
					6年	69	2
					合計	520	17

小学校	平成31年度		平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
南小学校	428	15	354	12

学年	平成36年度	
	児童数	学級数
1年	57	2
2年	47	2
3年	69	2
4年	60	2
5年	57	2
6年	64	2
合計	354	12

小学校	平成31年度		平成36年度	
	児童数	学級数	児童数	学級数
杉並小学校	355	12	312	12

学年	平成36年度	
	児童数	学級数
1年	59	2
2年	47	2
3年	59	2
4年	47	2
5年	46	2
6年	54	2
合計	312	12

中学校	平成31年度		平成36年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数
石岡中学校	637	20	557	18

学年	平成36年度	
	生徒数	学級数
1年	190	6
2年	176	6
3年	191	6
合計	557	18

学年	平成42年度	
	生徒数	学級数
1年	181	6
2年	167	5
3年	207	6
合計	555	17

中学校	平成31年度		平成36年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数
府中中学校	421	13	415	13

学年	平成36年度	
	生徒数	学級数
1年	142	4
2年	134	4
3年	139	5
合計	415	13

学年	平成42年度	
	生徒数	学級数
1年	143	5
2年	103	3
3年	142	5
合計	388	13

中学校	平成31年度		平成36年度	
	生徒数	学級数	生徒数	学級数
八郷中学校	428	13	353	12

学年	平成36年度	
	生徒数	学級数
1年	119	4
2年	119	4
3年	115	4
合計	353	12

学年	平成42年度	
	生徒数	学級数
1年	92	3
2年	107	4
3年	132	4
合計	331	11

- ・児童生徒数は特別支援学級の人数を含み、学級数は特別支援学級数を含まない
- ・平成31年度から平成36年度の児童生徒数及び学級数は、平成30年5月1日現在の住民記録登録者数から推計
- ・平成31年度以降の学級数は、1学級35人、複式学級は2学年で16人以下で試算

(C案)

石岡市小中学校統合計画審議会について

1 審議会の組織構成及び目的

- ・ 審議会は市議会の議員，自治会等の代表，PTA連絡協議会の代表，校長会の代表，幼稚園・保育所の保護者の代表，青少年関係団体の代表，学識経験者から20名以内で組織しています。
- ・ 市立小中学校の教育環境の整備及び学校における教育の充実を目的として，市立小中学校の統合計画を検討するための審議会であり，教育委員会の諮問に応じ，審議し，答申をいたします。

2 審議会で検討された小中学校における適正規模の基本的な考え方

- (1) 小学校においては，クラス替えが可能な各学年2学級以上となる12学級以上が望ましい。(複式学級の解消)
- (2) 中学校においては，クラス替えが可能で，全ての教科の担任が配置できる9学級以上が望ましい。(国・社・数・理・英に複数の教員配置が可能)

3 審議会における主な意見

- ・ 子ども達の事を第一に考えて教育環境，学校施設の整備や地域のコミュニティにも配慮した再配置を計画，検討したほうがよい。
- ・ 廃校になった学校施設，跡地の有効利用について，行政内部でも十分協議してもらいたい。
- ・ 統合校となる学校は，学校環境や施設の修繕整備を先に実施してから統合を進めるべき。
- ・ 小中一貫教育について，効果があり推進するという事であればモデル校や想定する学校の見通しを持っておくべき。
- ・ 人口減少が明確な状況において，持続可能な学校規模とした配置も検討すべき。
- ・ 学区の広域化による子ども達の負担も考慮すべき。
- ・ 今後さらに少子化が進んでいくと思われるが，複式学級については早期に解消をはかるべき。

小中学校の適正規模（国，県の考え方）

国（学校教育法施行規則）

- ・ 小中学校の学級数は，12 学級以上 18 学級以下を標準とする。
（小学校：1 学年 2 学級から 3 学級 中学校：1 学年 4 学級から 6 学級）
- ・ ただし，特別の事情があるときはこの限りではない。

茨城県（小・中学校の適正規模の基準）

- 1 小学校においては，クラス替えが可能である各学年 2 学級以上となる
12 学級以上が望ましい。
- 2 中学校においては，クラス替えが可能で全ての教科の担任が配置できる
9 学級以上が望ましい。
（国語・社会・数学・理科・英語に複数の教員の配置が可能）